

ミクログリアと中枢神経系の炎症病態

Microglia in Neuroinflammation

木村 公俊 先生

京都大学大学院医学研究科
臨床神経学 特定講師



日時： 2024年9月27日（金）午後4時～午後5時30分

場所： 神戸大学大学院医学研究科 福利厚生施設 (神緑会館)ホールA

ミクログリアは、中枢神経系の変性疾患や自己免疫疾患の病態に深く関与する。我々は、アミロイドβ病態におけるミクログリアの重要な制御因子として、Tim3を見出した。Tim3はミクログリアの機能を精密制御しており、治療標的候補になると考えている。一方、我々はresident memory様 T細胞（Trm様細胞）が、自己免疫疾患である多発性硬化症や、一部の神経変性疾患の髄液で増加していることを見出した。Trm細胞とミクログリアの相互作用による「慢性炎症」形成が、こうした難治性病態に一部共通して関与している可能性がある。本講演では、中枢神経系の難治性病態におけるミクログリアの役割について、最新の知見を交えてお話ししたい。

1. [Kimura K et al.](#) Resident Memory-like CD8+ T Cells Are Involved in Chronic Inflammatory and Neurodegenerative Diseases in the CNS. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm* 11, e200172 (2024).
2. [Kimura K et al.](#) Th1 - CD11c+ B Cell Axis Associated with Response to Plasmapheresis in Multiple Sclerosis. *Annals of Neurology* 90, 595-611 (2021).
3. [Kimura K et al.](#) Circulating exosomes suppress the induction of regulatory T cells via let-7i in multiple sclerosis. *Nature Communications* 9, 17 (2018).

主催：神戸大学メディカルトランスフォーメーション研究センター（担当：薬理学分野 078-382-5443）